

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和6年 6月 27日	
名古屋市長 様	
提出者	
住 所	名古屋市港区潮見町37番地15
氏 名	日清オイリオグループ（株）名古屋工場
	名古屋工場長 盛田 隆行
（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）	
電話番号	052-611-4111（代表）
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	日清オイリオグループ（株）名古屋工場
事業場の所在地	名古屋市港区潮見町37番地15
計画期間	2024年4月1日～2025年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	食品製造業
② 事業の規模	年間生産量 植物油114,000 t 油粕480,000 t 豆皮8,500 t
③ 従業員数	155名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙参照

(第2面)

産業廃棄物処理に係る管理体制に関する事項							
	(管理体制図)						
	別紙のとおり						
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項							
①現状	【前年度（令和5年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック	木くず ^a	動植物性残さ
	排 出 量	451t	1,990t	10t	45t	5t	538t
	(これまでに実施した取組)						
	・汚泥、廃油の有価化 ・分別による廃プラスチックの一部有価化						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック	木くず ^a	動植物性残さ
	排 出 量	451t	1,990t	10t	45t	5t	538t
	(今後実施する予定の取組)						
	・汚泥、廃油の有価化 ・分別による廃プラスチックの一部有価化						
産業廃棄物の分別に関する事項							
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・廃プラスチックのうち単一材質で有価化可能なものを分別						
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチックのうち単一材質で有価化可能なものを分別						

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項							
①現状	【前年度（令和5年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック	木くず [※]	動植物性残さ
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	(これまでに実施した取組)						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック	木くず [※]	動植物性残さ
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	(今後実施する予定の取組)						
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項							
①現状	【前年度（令和5年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック	木くず [※]	動植物性残さ
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	(これまでに実施した取組)						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック	木くず [※]	動植物性残さ
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	(今後実施する予定の取組)						

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋処分に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック	木くず	動植物性残さ
	自ら埋立処分又は 海洋処分を行った 産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	(これまでに実施した取組)						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック	木くず	動植物性残さ
	自ら埋立処分又は 海洋処分を行う 産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	(今後実施する予定の取組)						

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック	木くず	動植物性残さ
	全処理委託量	451t	1,990t	10t	45t	5t	538t
	優良認定処理業者への 処理委託量	79t	1,990t	0t	43t	5t	457t
	再生利用業者への 処理委託量	451t	1,990t	10t	45t	5t	538t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	（これまでに実施した取組） ・汚泥、廃油の有価化 ・分別による廃プラスチックの一部有価化						

(第5面)

②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック	木くず	動植物性残さ
	全 処 理 委 託 量	451t	1,990t	10t	45t	5t	538t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	79t	1,990t	0t	43t	5t	457t
	再 生 利 用 業 者 へ の 処 理 委 託 量	451t	1,990t	10t	45t	5t	538t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	(今後実施する予定の取組) ・汚泥、廃油の有価化 ・分別による廃プラスチックの一部有価化						
※事務処理欄							

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の一連の処理工程

20240401

- ① 汚泥 → 再生処理業者に委託して抽出後、再資源化
- ② 廃油 → 再生処理業者に委託してケン化分解後、再資源化
- ③ 植物性残さ → 中間処理業者に委託して焼却後、焼却(焼成)・造粒処理
- ④ 廃プラスチック類 → 中間処理業者に委託して焼却後、焼却(焼成)・造粒処理
- ⑤ ばいじん → 中間処理業者に委託して混錬後、焼却・焼成処理
- ⑥ 廃酸 → 中間処理業者に委託して中和処理後、焼却・焼成処理

産業廃棄物の処理に係る管理体制図

